

満開の三春滝桜

2008.4.21 撮影

福島県田村郡三春町滝字桜久保

日本三大桜の一つに数えられるが、シダレザクラとしては日本最大である。推定樹齢1000年、幹周9.5m、根周10.5m、樹高19m、枝張り東西25m、南北19mという、数字から見てもダントツの一位である。これ程の巨木になると、樹勢に衰えが見られ、花付きも悪いものだが、三春滝桜は現在も滝が流れ落ちるような見事な花を付ける驚異の桜。そのため、人気も別格のものがあり、花のシーズンには高速道路の出口あたりから渋滞するという異常な事態が起る。駐車場から桜までの参道?は、まるで東京の繁華街を歩いているような人出であるが、を目指す滝桜が出現すると、吾を忘れて見入ってしまう存在感があり、人々を引きつける魅力に納得してしまう。滝桜を見ずして、日本の桜は語れないということであろうか。

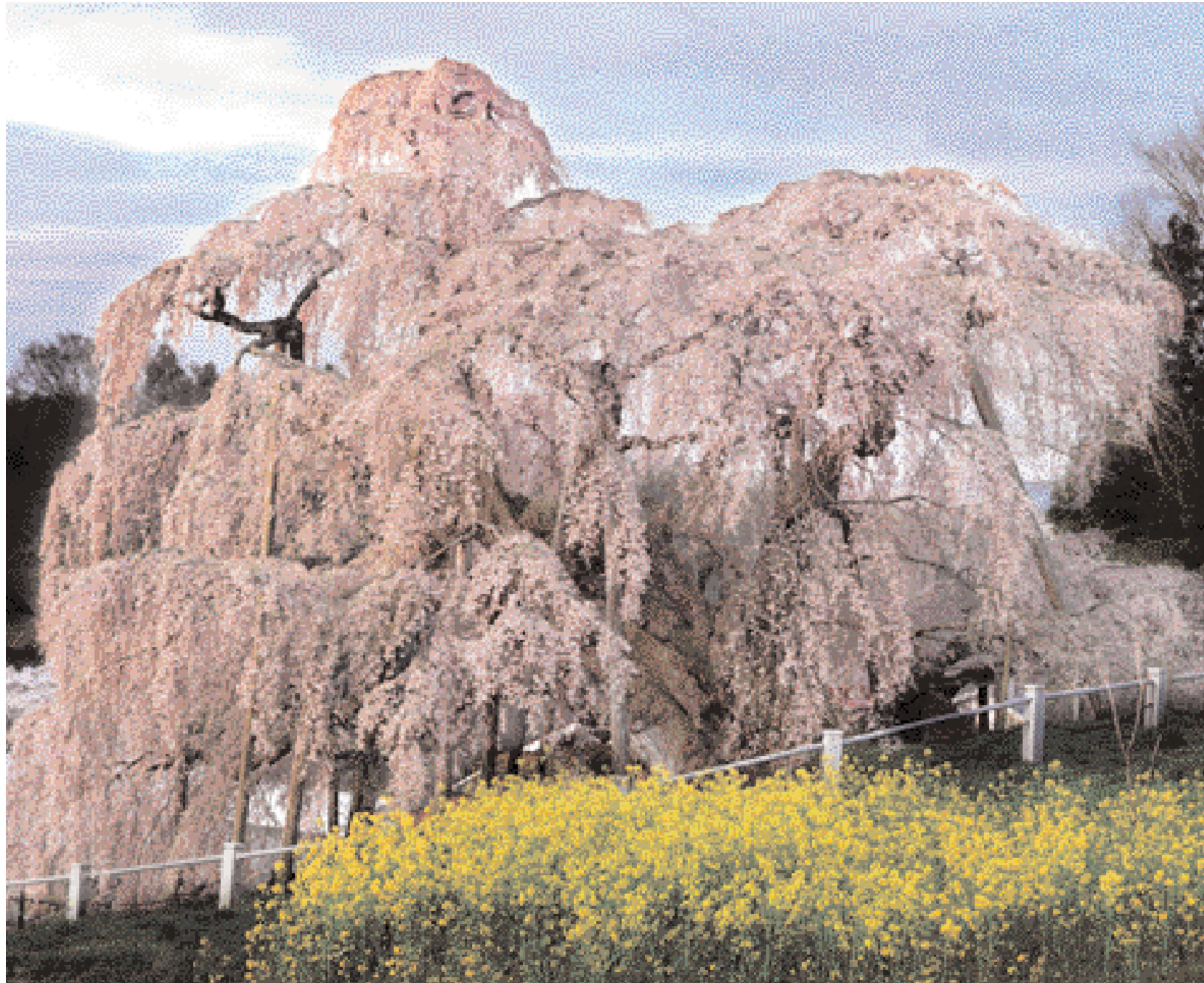
この桜をこよなく愛した歴代の三春藩主は、周囲にある畠を無税とし、藩主の御用木に指定、保護した。開花期には毎日早馬を出して花の状態を報告させ、満開になれば藩主が花見に出かけ、堪能したと伝えられる。

滝桜の立地が素晴らしい、擂鉢状になった広大な敷地の西斜面に立つ。360度から、しかも上部からも眺められるというものは全国に例がなく、やはり藩主の御用木であったことが伺える。そのため、太陽光線による変化も楽しめ、真正面から朝日が照らし、日没はバックライトになる。三日間だがライトアップも行われ、写真家にとって、これ程表現幅を持った桜はざらではなく、何度も足を運びたくなる衝動に駆られるのである。

右の作品は、二度目の訪問で、目的は幅150mm、縦130mmの大和写真を制作するためであった。日の出を待って撮影しようと構図を考えていたが、日の出が正面からであること、主幹の見事さが正面からは表現できないことなどから、北側からの構図を採用した。この位置は背景に人家などが写り込むことから、ほとんどカメラマンがない位置だ。前景の菜の花は、観光目的で植えたものだろうか。出来上がった作品は、2億7千2百万画素という巨大な画像で、花一輪が確認できる精巧なものである。



三春滝桜主幹 2007.4.20 撮影



自然光と人工光の絶妙な配合

この年、ライトアップが再会されると聞き、訪れた。薄暗くなり始めた頃にライトに点灯され、しばらくすると日没の残照とライトの光がうまく混ざりあって、ボタン色に染まり出した。周囲をアンダーにする必要から、かなり離れて望遠での撮影。ほんの数分、色彩の宴であった。



史上初の珍事

三春滝桜雪景色

2010.4.22 撮影

自宅を出たのがこの日の午前3時頃で、距離にして約500キロ。ひたすら高速道路を北上し、新潟県境を越えたあたりで「チェン規制」の表示板が目に飛び込んできた。四月下旬に何の事だろうか?意味不明である。同時に「三春滝桜満開」の表示もある。周囲に積雪はなく、見間違いかと思って進むと、郡山ジャンクションあたりから何と積雪が始まったのである。異常気象だ。もちろんスノータイヤは外している。危険を回避するため郡山東で高速を降り、一般道に入るが、積雪は道路で10㌢程あり、胸がときめき出す。運転の心配と、滝桜の雪景色が撮影できる興奮からであろう。

満開時に長蛇の渋滞になるはずの周辺に人影はなく、駐車場にも車は疎らという異常事態。息を切らせて坂を登ると、何と雪が積もった滝桜があった。関係者の方に聞くと、三分咲きに雪が積もったことはあったが、満開は生まれて初めての光景だということ。

到着した午前11時頃は激しく雪が降っていたが、12時を回った頃に雨に変わり、峠は越えたようであった。それにしても、神がいるとしか思えない偶然の出来事に、この日は一日興奮状態であった。

